数学 IB 演習(第7回)のヒント

問 1. それぞれのベキ級数 $\sum_{n=0}^\infty c_n x^n$ に対して、「級数の収束判定法」を適用してみよ. すなわち、与えられたベキ級数の一般項を $a_n=c_n x^n$ と表わすとき、

$$M = \lim_{n \to \infty} |a_n|^{\frac{1}{n}},$$

あるいは,

$$M = \lim_{n \to \infty} \left| \frac{a_{n+1}}{a_n} \right|$$

で与えられる級数 $\sum_{n=0}^{\infty} |a_n|$ の仮想的な「公比」M を求め, M<1 という条件を |x|< r という形に書き直してみよ.

問 2. 陰関数定理より、点 (0,0,1) の近くで、g(x,y,z)=0 が z について解けることを示すためには、 $\frac{\partial g}{\partial z}(0,0,1)\neq 0$ となることを確かめればよい。また、 $\frac{\partial \varphi}{\partial x},\frac{\partial \varphi}{\partial y}$ を求めるためには、(多変数関数の場合の)合成関数の微分則を用いて、

$$g(x, y, \varphi(x, y)) = 0$$

という式の両辺を x や y で偏微分してみよ.

問 3. $x^2+y^2=1$, あるいは, $2x^2+3y^2=1$ 上の点を, $(x,y)=(\cos\theta,\sin\theta)$, あるいは, $(x,y)=(\frac{1}{\sqrt{2}}\cos\theta,\frac{1}{\sqrt{3}}\sin\theta)$ と表わして考えてみよ. また, 余裕があれば, Lagrange の未定乗数法を用いた考察も行なってみよ.

[参考: 陰関数定理(問2に対応した形で述べたもの)]

 $(x_0,y_0,z_0)\in\mathbb{R}^3$ を、関数 $g:\mathbb{R}^3\to\mathbb{R}$ の零点とする。すなわち、 $g(x_0,y_0,z_0)=0$ とする。また、点 (x_0,y_0,z_0) のまわりで、関数 g(x,y,z) を、

$$g(x, y, z) = P_1(x, y, z)$$

$$= \frac{\partial g}{\partial x}(x_0, y_0, z_0)(x - x_0) + \frac{\partial g}{\partial y}(x_0, y_0, z_0)(y - y_0) + \frac{\partial g}{\partial z}(x_0, y_0, z_0)(z - z_0)$$

というように, (x_0, y_0, z_0) における一次の Taylor 多項式 $P_1(x, y, z)$ で近似したときに,

$$g(x, y, z) = 0$$

という方程式の近似方程式

$$P_1(x, y, z) = 0$$

が z について解けるとする. すなわち, $\frac{\partial g}{\partial z}(x_0,y_0,z_0)\neq 0$ とする. このとき, 点 (x_0,y_0,z_0) の近くでは, g(x,y,z)=0 という (近似なしの) 方程式も z について解

ける. すなわち, (x_0,y_0) の近傍で定義された関数 $\varphi(x,y)$ が存在して, 点 (x_0,y_0,z_0) の近くでは,

$$g(x, y, z) = 0 \iff z = \varphi(x, y)$$

が成り立つ.

[参考: Lagrange の未定乗数法 (問3に対応した形で述べたもの)]

 λ という余分な変数を用意して、

$$F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$$

という三変数関数を考えると、

$$\frac{\partial F}{\partial x} = \frac{\partial F}{\partial y} = \frac{\partial F}{\partial \lambda} = 0$$

という連立方程式の解として, g(x,y)=0 という条件のもとでの関数 f(x,y) の条件付きの臨界点を求めることができる.